

国際会計基準審議会御中

2004年10月8日

IAS 第 39 号「金融商品：認識及び測定」

改訂公開草案「グループ内予定取引のキャッシュフロー・ヘッジ会計」に対するコメント

企業会計基準委員会（ASBJ）は、IAS 第 39 号改訂公開草案「グループ内予定取引のキャッシュフロー・ヘッジ会計」に対してコメントする。ここに記載されている見解は、国際対応専門委員会のものである。

改訂 IAS 第 39 号では、グループ内の外貨建予定取引をヘッジ対象に指定することは禁止されているが、本公開草案では、当該取引と外部予定取引との関連付けによりヘッジ会計の適用が認められることを提案している。しかしながら、我々は、本公開草案での提案より、むしろ、外貨建予定取引については、グループ内取引であってもヘッジ対象として指定できるように認めることを提案する。

その理由は以下のとおりである。

- 本提案では、外貨建のグループ内予定取引と外部予定取引との関連付けを要求しているが、このような関連付けが成立しない場合でも、グループ内の外貨建予定取引に係る為替変動のエクスポージャーは、内部取引として消去されずに、残ることに変わりはない。したがって、外部予定取引との関連付けがなされていなくとも、グループ内予定取引をヘッジ対象として認めるべきである。
- このように、グループ内の外貨建予定取引に係る為替変動のエクスポージャーは、消去されず残るため、日本基準・米国基準においてはヘッジ会計が認められており、会計基準の収斂の観点からもヘッジ会計の適用が認められることが望ましいと考える。

我々のコメントが IASB の最終的な意思決定に貢献することを希望する。

西川 郁生

国際対応専門委員会 専門委員長

企業会計基準委員会 副委員長